





# ゼロカーボン意識レベル確認 セルフチェックシート



- 2020年3月、道は気候変動問題に長期的な視点で取り組むため「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す」ことを表明しました。
- 再生可能エネルギーと森林などの吸収源の最大限の活用により、脱炭素化と経済の活性化や持続可能な地域づくりを同時に進めています。
- 職員の皆さんは、このセルフチェックシートの実施を通じて、ゼロカーボン北海道の実現に向けた家庭や職場での行動を見つめ直すとともに、以下の行動に率先して取り組みましょう。



以下の項目についてあてはまるものに「○」、あてはまらないものに「×」をつけて、セルフチェックをしてみましょう！



設 問		チェック欄
1	気候、室温に合わせた服装（クールビズ、ウォームビズ）で勤務している。 （暖房を1℃低くすると521g/日 CO2を削減する。）	
2	マイ箸、マイボトル、エコバッグを持参している。 （買い物の際にマイバッグを使用+簡易包装の野菜を選ぶと160g/日 CO2を削減する。）	
3	出かける際にはなるべく車は使わず、公共交通機関の利用や、徒歩、自転車等で移動している。 （自動車を使うのをやめると232g/km CO2を削減する。）	
4	使用頻度の低い電気製品（電子レンジ、シュレッダー等）はこまめに電源プラグを抜いている。 （使っていない電化製品のプラグをコンセントから抜くと82g/日 CO2を削減する。）	
5	電気ポット、パソコン等は退庁時に電源プラグを抜いている。	
6	パソコンのスリープモードを設定している。	
7	電子決裁の利用や、両面印刷、2アップ印刷など、ペーパーレス化を常の実施している。	
8	庁舎内では、エレベーターを使わず階段を利用している。 （2up-3down）	
9	（飲食店を利用する際）分割して少しずつ注文し、持ち帰りが可能なものは持ち帰るなど、フードロスの削減に取り組んでいる。	
10	毎月26日（風呂の日）は、定時退庁を心がけ、自宅のお風呂を焚かずに公衆浴場を利用している。	



上記のほか、ゼロカーボンの推進に寄与する日常行動を実践した場合、その内容を記載してください。



このセルフチェックは年に2回実施します。（12月、6月）



期限までに課のゼロカーボンマイスターに提出してください。



優れた取組を実践した方には、局長賞を差し上げます。



# 十勝総合振興局 フードマイレージキャンペーン

～地産地消は、環境にもやさしい取組です～



## フードマイレージとは

食糧の輸送量に輸送距離を掛け合わせた指標のことで、食糧の輸送が地球環境に与える負荷を把握するものです。

## キャンペーン内容

いま住んでいる地域の食材を選ぶことにより、二酸化炭素の排出量を削減することができることを認識し、生活に支障のない範囲で自分が住んでいる地域の食材を選んで食べることに取り組んでいただくもので、期間は下記のとおりです。

- ※ 食材例：肉、野菜、水産物などの食材  
加工品、加工品が使われた食材  
外食やテイクアウトをする場合 など
- ※ 実施後、アンケート調査にご協力願います。  
(回答者の中から抽選でエコグッズを配布。)

食材を選択する  
ときは【フード  
マイレージ】を  
意識！



## 重点実施期間

令和3年(2021年)12月15日～令和4年(2022年)1月14日まで

※帰省中は、自分が育った地域の食材を選んで食べることに取り組む

## 計算方法(参考)

輸送に際し、排出される二酸化炭素量は、輸送手段を【海路】と【陸路】を併用して行う場合には、次の排出係数を利用します。

- ・海路は1トンの積荷を1km運ぶのに  $20.7 \times 10^{-3} \text{kg-CO}_2$  ①
- ・陸路は1トンの積荷を1km運ぶのに  $116 \times 10^{-3} \text{kg-CO}_2$  ②

これらの数値を用いるとCO2排出量は下記の式で計算できます。

(①×海路輸送距離+②陸路輸送距離)×輸送量

※北海道地球温暖化防止活動推進センター(公益財団法人北海道環境財団)『北海道を元気に!温暖化防止一村一品応援プロジェクト』より

【例】鶏肉1kgで考えてみると・・・

ブラジルから帯広に輸入

CO2 排出量=2.5 kg

約833倍の差



中札内村から帯広に移動

CO2 排出量=0.003 kg

※2.5kgとは・・・

- ・「PCの電源を切る」の取組の約209時間分!!
- ・「マイバッグを持参し、レジ袋辞退」の取組の約417枚分!!



## 令和3年度 ゼロカーボンとかち 今後の取組予定

事業名	事業名	提案理由	実施期間
総務課	庁舎の節電	庁舎エレベーターを1基停止することで、振興局内でのゼロカーボン北海道の実現に向けた取組に寄与する。（利用状況を見ながら今後の運用方法を検討）	12月20日～
地域政策課	公共交通利用促進PR	路線バス等の利用促進に向けて、SNSを活用したプロモーション活動を実施することにより公共交通利用者の回復を図るとともに、ゼロカーボン意識の醸成を図る。（詳細は別紙 資料7のとおり）	12月下旬～
環境生活課	地球温暖化防止セミナー	家庭部門の温室効果ガスの排出量の削減に向け、地域住民に対し取組の普及啓発セミナーを開催し、自発的な行動変容を促すとともに、市町村の取組の推進を図る一助とする。	2月中旬～下旬
環境生活課	フードマイレージキャンペーン	職員が居住している地域の食材を選んで食べることでCO2排出量を削減を認識してもらう地産地消の推進に向けたキャンペーンを実施。（帰省の多い年末年始に重点実施期間を設定し取組推進）	(重点期間) 令和3年12月15日～ 令和4年1月14日
環境生活課	とかちオリジナルマイバッグ	庁舎内売店を利用した際に受け取るレジ袋の削減を目的として、「とかポロ」とおそろいの振興局オリジナルマイバッグを作成する。マイバッグを使用することで職員の意識改革に繋げるとともに十勝のアピールも行う。	12月職員周知 1月使用開始
環境生活課	振興局職員向け勉強会	振興局が一体となってゼロカーボン北海道を目指すために、ゼロカーボンに関する知識や市町村の取組情報を職員が共有するための勉強会を開催する。	1月～
商工労働観光課	市町村への新エネルギー導入促進	化石燃料から新エネルギーへのエネルギー転換を促進するため、主要市町村に専門家派遣を行い新エネルギーの導入に向けた検討を行う。	12月～
商工労働観光課	管内における次世代自動車の普及促進	次世代自動車の普及に向けて、先進地からの取組説明等を交えた企業向け勉強会を開催する。	2月
建設指導課、林務課 環境生活課、商工労働観光課	北方型住宅フェア	高断熱・高気密で省エネ性能に優れた北方型住宅と地域材を活用した「とかち型エコ住宅」の促進に向けたwebセミナーを開催する。	2月
農務課	パネル展	1月18日に開催予定のバイオガス資源有効活用に関する事例発表会と併せて、ゼロカーボンの様々な取組を、振興局1F展示スペースを利用したパネル展を実施する。	1月中旬～下旬
水産課	パネル展	ゼロカーボンの実現に向け、水産業でもCO2排出量削減・吸収源対策、藻場・干潟の保全・創造の推進を検討している。これらの推進に向けての意識醸成をはかるためのパネル展を実施する。	2月中旬～下旬
林務課 森林室	パネル展	木製家具にCO2固定量を表示するなど森林の持つ吸収・貯蔵機能や森林整備・木材利用に関する取組の普及促進に向けたパネル展を実施する。	〃
建設指導課 林務課	パネル展	高断熱・高気密で省エネ性能に優れた北方型住宅2020の普及促進と木材利用の促進に向けたパネル展を実施する。	12月下旬